

図書だより



令和3年3月22日発行
明和県立高等学校図書室

図書室から

今年度もあと少しですね。春休みはたくさん本を読むチャンスです。時間のとれるこの時期にぜひいろいろな本に挑戦してみてください。気になっていた小説のシリーズを読破、最近よく耳にするあの話題について、本屋さんで見かけた新刊……。読んだ本が、あるいは本を読んだ体験が新学期にきっとみなさんの助けになりますよ。図書室は南校舎2階の奥です。ご利用お待ちしております。

春休み特別貸出

- ・貸出冊数 一人10冊まで
- ・貸出期限 1ヶ月

図書返却のお願い

期限を過ぎて借りている本は**至急返却**をお願いします。

新着図書紹介

『犬がいた季節』

伊吹有喜著、双葉社

1988年夏の終わりのある日、高校に迷い込んだ一匹の白い子犬。「コーシロー」と名付けられ、以来、生徒とともに学校生活を送ってゆく。昭和から平成、そして令和へと続く時代を背景に、コーシローが見つめ続けた18歳の逡巡や決意を、瑞々しく描く青春小説の傑作。



『人新世の「資本論」』

斎藤幸平著、集英社新書

人類の経済活動が地球を破壊する「人新世」=環境危機の時代。気候変動を放置すれば、この社会は野蛮状態に陥るだろう。それを阻止するためには資本主義の隙なき利潤追求を止めなければならないが、資本主義を捨てた文明に繁栄などありうるのか。



『孤塁（こるい）』

双葉郡消防士たちの3・11

吉田千亜著、岩波書店

原発が爆発・暴走するなか、不眠不休で続けられた地元消防の活動と葛藤を、消防士たちが初めて語った。一人ひとりへの丹念な取材にもとづく渾身の記録。



『なぜ僕らは働くのか』

池上彰著、学研プラス

仕事、お金、幸せ、AI、多様性、働きがい……。働くうえで考えるべきテーマをマンガと図解で伝えます。



『元彼の遺言状』

新川帆立、宝島社

「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という奇妙な遺言状を残して、大手製薬会社の御曹司・森川栄治が亡くなった。学生時代に彼と3か月だけ交際していた弁護士の剣持麗子は、犯人候補に名乗り出た栄治の友人の代理人として、森川家の主催する「犯人選考会」に参加する。



『天久鷹央の推理カルテ』

知念実希人著、新潮文庫n o x

統括診断部。天医会総合病院に設立されたこの特別部門には、各科で「診断困難」と判断された患者が集められる。頭脳明晰、博覧強記の天才女医・天久鷹央（あめくたかお）が解き明かす新感覚メディカル・ミステリー。



『滑走路 歌集』

萩原慎一郎著、角川文庫

いじめ、非正規雇用、恋……。逆境に負けず生きる希望を歌い続けた歌人・萩原慎一郎が遺した唯一の歌集。映画化も。



『オードリー・タン デジタルとAIの未来を語る』

オードリー・タン著、プレジデント社

2020年に全世界を襲った新型コロナウイルスの封じ込めに成功した台湾。その中心的な役割を担い、世界のメディアがいま、最も注目するテクノロジー界の異才が、コロナ対策の成功の秘密、デジタルと民主主義、デジタルと教育、AIと社会・イノベーション、そして日本へのメッセージを、自身の言葉で語りつくす。

図書委員おすすめの本

『子どもにかかわる仕事』(2年男子)

汐見稔幸著、岩波ジュニア新書

私は小さいころから、子どもに関わる職業に就きたいと考えていました。この本は実体験に基づいて書かれており、とてもためになります。選択に迷ったらぜひ読んでみてください。



『屍人荘の殺人』(1年男子)

今村昌弘著、東京創元社

あなたの周りにゾンビが現れたらどうしますか？逃げる？戦う？それとも…。

この本の主人公はひよんなこと参加した映画研究部の夏合宿中に想像しえなかった事態に遭遇し、建物の中に閉じ込められてしまいました。安全だと思った場所。しかし、夜が明けるとそこには人の手で殺された部員の姿が！

奇想天外のアイデアと本格ミステリが見事に融合した本作。ぜひ一読を。

